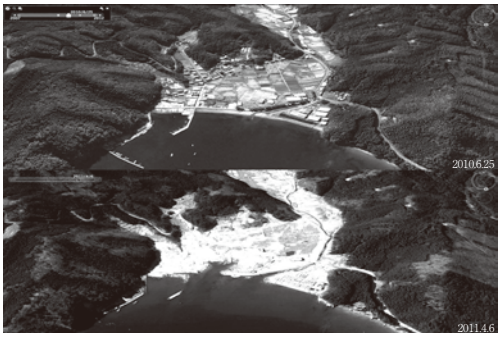
谷川浜復興計画

農林漁業の融合による漁村集落の地域再生モデル



本計画では宮城県石巻市谷川浜を対象に、高台移転・防潮堤・高台復興道路の現行計画案を踏襲しつつ、山林資源の流動を促す枠組みとし、浜の生活の記録から漁村集落ﾊﾟﾀﾝ・ﾗﾝｹﾞｰｼﾞを構築することで、農林漁業が融合した浜の生業と共同性が作り出す将来像をまとめた。以上により、復興事業に伴って変化を余儀なくされる浜の生業と復興されるまちを、地域固有の空間的要素とその連関の展開により繋ぎ止める自律性のある地域再生ﾓﾃﾞﾙを提案する。

東日本大震災、小さな集落の復興

東日本大震災の発災(2011年3月11日)から2年を迎えようとしている被災地では、地震と津波の傷跡は今も深く、瓦礫は山となって積まれ、発電所の事故も鎮まらぬままである。

阪神大震災と比較して、被災範囲が圧倒的に広く、被災した沿岸部の漁村集落(ここから浜と呼ぶ)の多くが壊滅的な被害を受けている。本来であれば、各浜に復興を牽引するアーキテクトが必要で、それぞれの浜が協調して着実な前進をみせるべきだが、復興事業は縦割の制度や地理的複雑さから、孤立と遅ればかりが目についてしまい、被災した住民からみれば不満が増幅し、浜を戻り以前の暮らしを取り戻す自信と熱意が削がれている。私が訪れた谷川浜は、潮死の状態に追い込まれ、被災直後は集落解散が浮上する等、復興の兆しがあまりに不透明な現場であった。しかし、被災地に残り、仮設住宅で暮らし、自らダンプを操作して瓦礫を一掃する漁師たちの姿があった。彼らは自力で浜の生活を取り戻そうとしている。我々、建築を志す人間は、この自力で再建しようとする姿を見て何ができるのか、浜の将来像の真髄に迫って計画を提案する必要がある。

文化人類学的リサーチ - 漁業インターン -

私は石巻市谷川浜の定置網漁と帆立養殖、海鞘種養殖を営む漁師に弟子入りを申し出て、約1ヶ月の漁業インターンを経験した。この経験を通じて、漁師の生活を追体験することができ、被災地に訪れただけでは見えてこない、浜の熱るべきかたちが段々と身体で感じ取れるようになり、浜の生活の一端を記録することができ、研究の骨格をつくる動機となった。

谷川浜の生活の主たる生業は漁業であるが、それだけではない。時には畑に足を運び、実った野菜をとり、山に入って竹を切って大漁旗を飾る竿をつくったりと生活のなかにいくつもの業が入り交じる、自律性の高い生活様式がそこにはあり、漁師が自ら自分たちの浜の自慢をする根拠はここにあるように思う。

「聞き書き」による浜の生活の記録

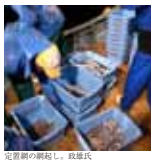
漁業インターンでは、生産空間の分析と合わせて、被災前の住居の聞取り調査を行った。この地域はいわゆる三陸沿岸部の漁師住宅の系譜をたどるもので、続き間や縁側といった特徴を持ち、これらの形式が反復した街並みが浜の風景を作り出していた。

宮城県石巻市谷川浜の瓦礫処理場 (2012.5.24)

帆立養殖の船上での水揚げ。藤芙克之氏

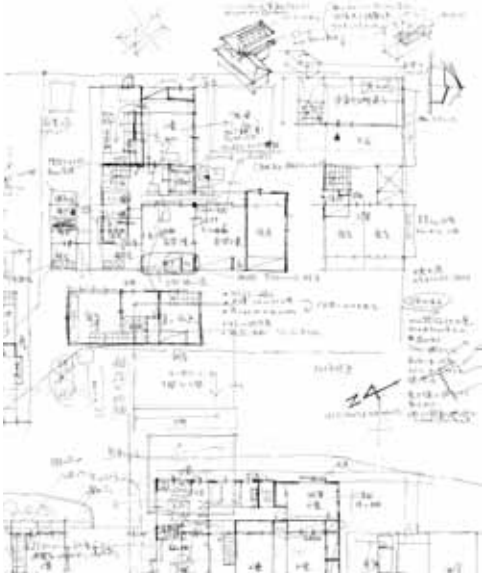
帆立養殖の耳吊り。家族・親戚一同

海鞘養殖の船上での棚揚げ。貴幸氏。


定置網の網起し。政雄氏

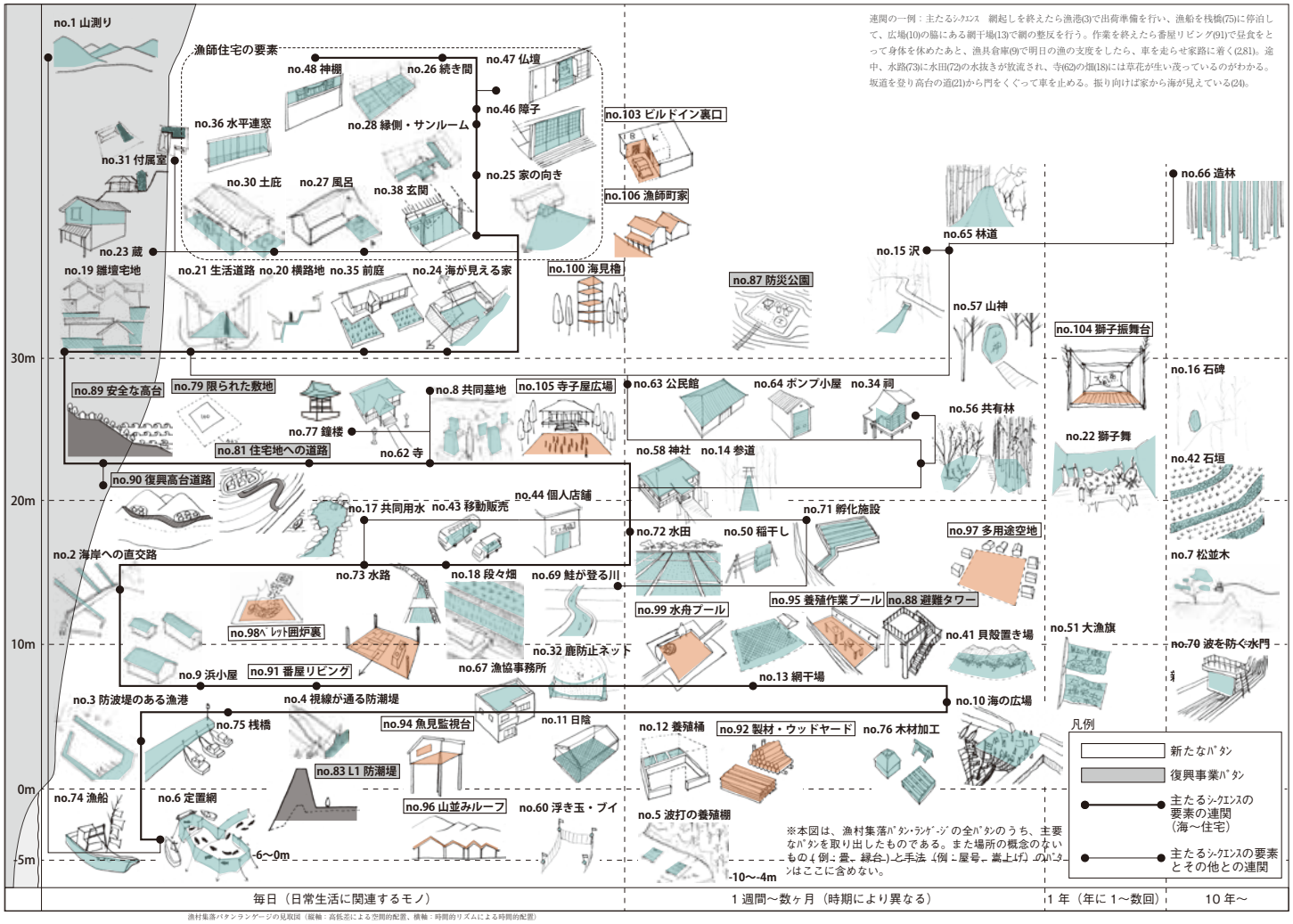
海鞘養殖の貝拾い。伯子氏

海鞘養殖の養殖棚づくり。美佐子氏。


漁師住宅の聞取り調査の野帳

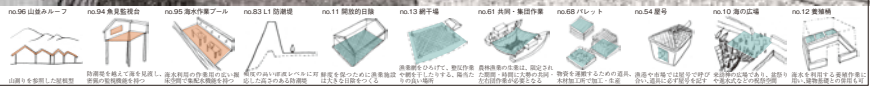
漁村集落パタンランゲージの構築 - パタンを巡るように展開する浜の生活 -

計画にあたり、「聞き書き」という方法で失われた浜の生活のを記録し、また津波の被害が少なかった近隣の浜の踏査を行い、漁村集落特有の生産空間や生活空間を作り出している77のﾊﾟﾀﾝを抽出した。これらのパタンを標高による空間的配置と、浜の活動のﾘｽﾞﾑに対応した時間的配置によってﾏｯﾋﾟﾝｸﾞした。例えば、漁師が潮や天候を確認するno.24海が見える家と庭は、no.89安全な高台により、海と家との距離が離れ低平地での休息の場が失われるため、漁師の寄宿舎である番屋を共同利用・運営するno.90番屋ﾘﾋﾞﾝｸﾞが海辺の新たな居場所になる。また、no.83　L1防潮堤により漁業関連施設の海への視線が遮られるため、魚群を見つける魚見台を密猟の監視機能を持つ漁協施設に置き換えたno.93魚見監視台が漁港の安全・管理を果たす。浜での生活は、こうした漁業・林業・農業のﾘｽﾞﾑに対応したﾊﾟﾀﾝを巡るように展開されており、なかでもその骨格を主たるｼｰｸｴﾝｽと呼ぶ。本計画では、これらのﾊﾟﾀﾝを漁業・農業・林業の生産空間と生活空間に適応することで、その有機的なつながりを構築する。



漁村集落パタンランゲージの見取図（縦軸：高低差による空間的配置、横軸：時間的リズムによる時間的配置）

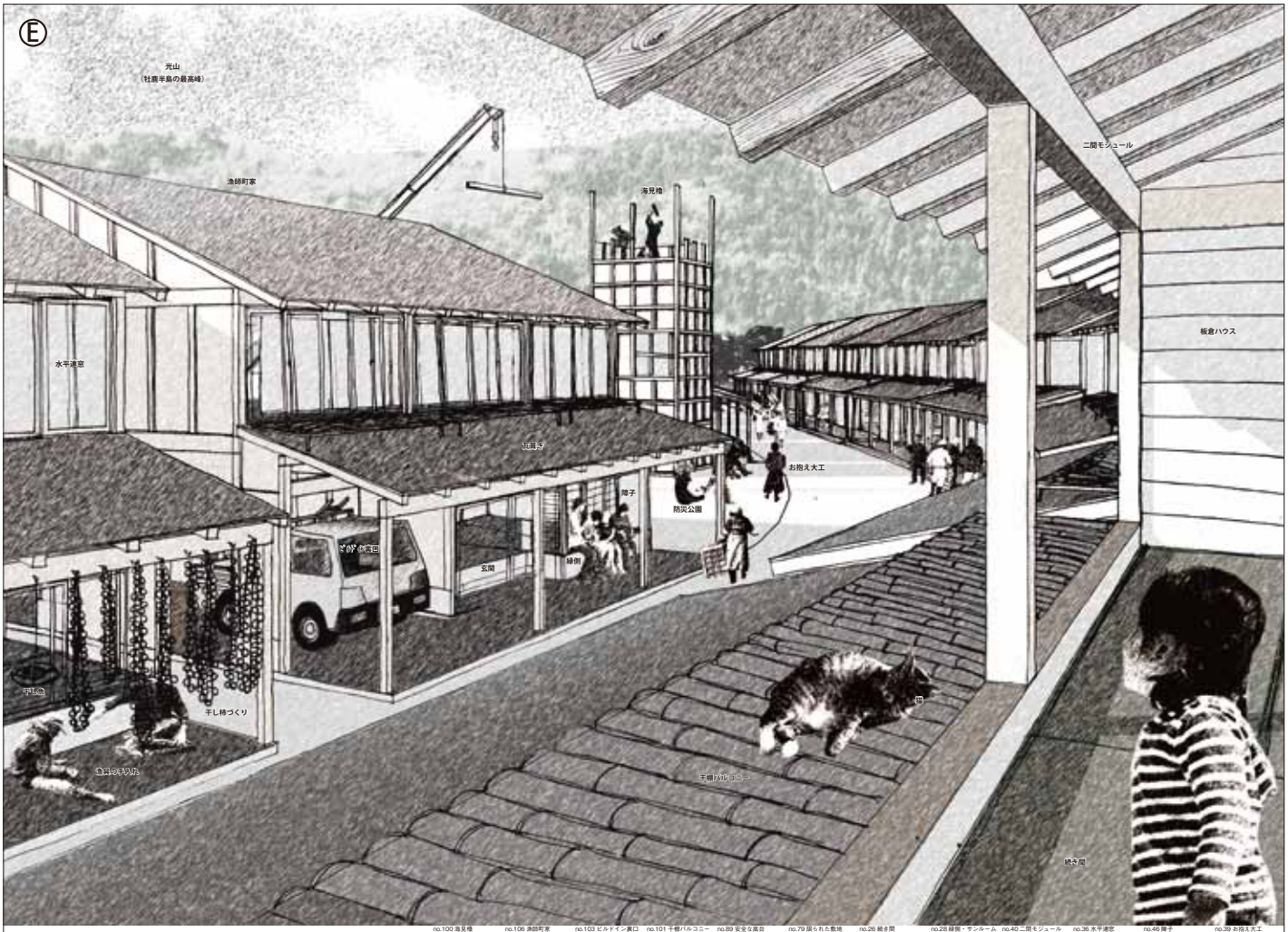
共同養殖作業場　漁師の山測り(海から見た山の重なりや形で位置を確認する)を参照した**山並みルーフ**が山のリズムに合った大屋根をつくり、下部はRC造の**養殖桶**が並ぶ室内空間と**開放的日陰**の半外部空間が反復し、床に掘り込まれた**海水作業プール**では大きな作業台を大勢で囲みながら**共同・集団作業**を行い、防潮堤に囲まれた陽当たりの良い場所は**網干場**とする。上部は木造の漁協事務所兼漁具倉庫が**魚見監視台**となってL1防潮堤を越えて漁港を監視する。



獅子振舞台　高台移転や高台復興道路事業の参入による山林運用の変化に伴い、**山神の祠**を共有林に建設する。この祠は春祈祷の**獅子舞**（牡鹿半島では獅子振と呼ばれる）の舞台となることで海と山の生業を結ぶ。普段は山神の御神体が安置されており、被災時には浜からのびる**直線的避難道**で高台に駆け登り、一次避難所として活用される。

寺と鐘楼　浜から高台に続く道路の脇に位置に再建予定されている寺は、防災公園としての整備を実施し、震災祠や獅子舞の稽古など地域活動の受入や森林の植林活動、防災教育活動を行う**寺子屋広場**となる。津波にあった以前の寺の屋根を保存・移復、津波で流されるに残った庭の石を活用した**鐘楼**が海を向いて建ち、浜場や浜、高台の集落に時刻を知らせる。

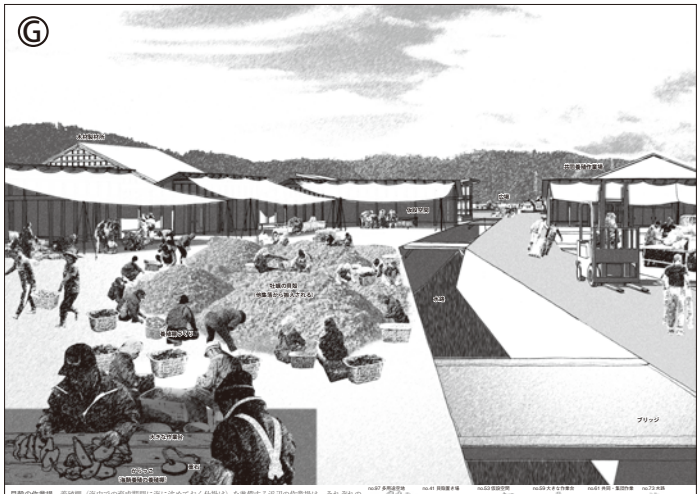
Ⓔ



海見櫓　高台の集落は浜から遠ざかり、住居からの海への眺めを確保できないので、**海見櫓**が集落の中央に建設され、海や共同農園、山林を見渡すことが出来る。**漁師町屋**は、道に面する庇の空間が**縁側**や**玄関**に連動して作業や干し物が溢れ出し、ﾋﾞﾙﾄﾞｲﾝ**裏口**により駐車場から台所、脱衣室に接続し、**干棚バルコニー**では物干し、昼寝の場所となる。新築、増改築は**お抱え大工**が施工する。

no.100 海見櫓　高台から海の眺めや天候を確認するための櫓
no.106 漁師町家　道路に面して庇を構えて生業に適応した庇の空間をつくり、背後で物流等を行う
no.103 ビルドイン裏口　駐車場から台所、脱衣室に接する網漁師道具の収納
no.101 干棚バルコニー　竹製で干物や物干に用いる物に、昼寝の場所にもなる
no.89 安全な高台　家は津波の心配をせずに暮らせる安全な場所
no.79 拠られた敷地　1つの住宅に100戸の敷地が割り当てられる
no.26 縁側・玄関　縁側・広間は縁を間でハレの場、奥は二間続きだった。
no.28 縁側・サンルーム　全開開口の縁側は外から中の様子が伺える。
no.40 二間モジュール　空間が生きてあり、時間の流れの最少単位
no.36 水平連窓　縁側に設いられるテラス窓。縁側の明かりが入る
no.46 障子　縁側と部屋を仕切りつつ、縁側の明かりが入る
no.39 お抱え大工　家を建設・修繕・増改築は地元大工・工務店が担当

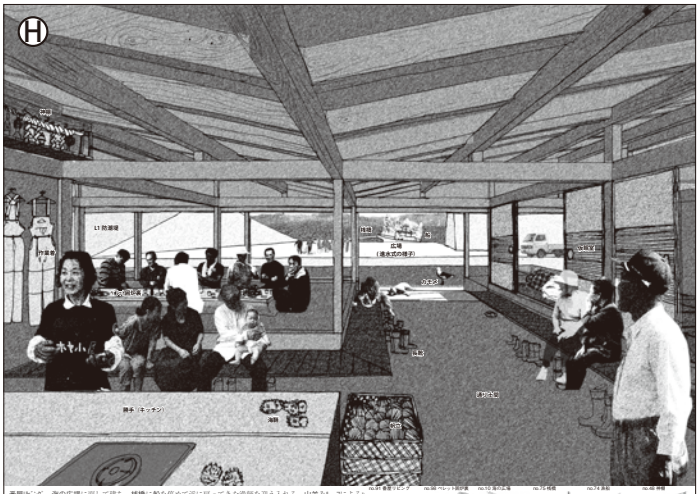
Ⓖ



貝殻の作業場　荒地期（海中での育成期間に海に沈めておく仕掛け）を準備する浜辺の作業場は、それぞれの漁師の持家のあった敷地を現在は利用しており、個別での再建に隔り、乱れた浜の風景を生む可能性があるため、小屋を共同出資・建設して、必要に応じてﾊﾞｺﾞﾔｸﾗｲﾄを張って日除の**仮設空間**で**大きな作業台**を置き、中央の**多用途空間**に**貝殻置き場**として作業を行う。夏～冬は荒地作業に、春～夏は剥ﾃ場に利用される。

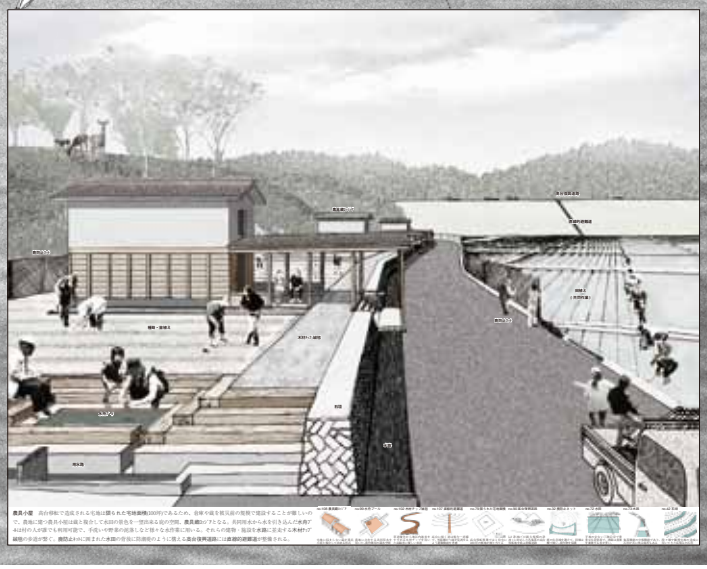
no.67 多用途空間　剥がれた牡蠣の殻を集める場所
no.41 貝殻置き場　剥がれた牡蠣の殻を一時的に集める場所
no.53 仮設空間　一時的に使用されるテントやビニールハウス
no.59 大きな作業台　剥がれた牡蠣の殻を分別する場所
no.61 共同・集団作業　剥がれた牡蠣の殻を分別する場所
no.73 木路　集荷の時に木路を通ってトラックが来る

Ⓗ



番屋ヒング　海の広場に面して建ち、**桟橋**に船を停めて浜に戻ってきた漁師を迎え入れる。**山並みｰ**ﾌﾟによる**ﾊﾟﾗﾎﾞﾗ屋根**と作業者で立ち寄る漁師のための通り土間による段差により、食堂と昼寝のための**仮眠室**を分節し、食堂では廃材を燃料とする**ﾍﾟﾚｯﾄ薪炉裏**を炊ぐ調み、蒸水式（新調・修理した船が入港する際に執り行う儀式）などの祭礼行事の寄合の場にもなる。観光に訪れた人や釣り人が立ち寄れる開放性のある空間とした。

no.01 番屋ヒング　海の広場に面して建ち、桟橋に船を停める
no.56 ペレット薪炉裏　廃材を燃料とする薪炉裏
no.10 海の広場　海の広場に面して建ち、桟橋に船を停める
no.76 桟橋　桟橋に船を停める
no.74 通路　通路は桟橋に船を停める
no.68 桟橋　通路は桟橋に船を停める



農具小屋　高台移転で造成される宅地は狭られた宅地面積(100坪)であるため、自家や畑を賃貸住宅の敷地で建設することが難しいが、農地に隣の農具小屋は最も敷地でこの辺りの居住を一堂共有する場の空間、**農具小屋**がありなる。共同用水から水を引き込んだ水路がこの辺りの人が建てる相対住宅、今迄へ今野の自治体と少等ける共同工事に用いる。そもこの建物・施設を水路に沿ってある木材ブ線路の歩道が繋ぐ、**農**既とされに沿ってた水路の沿道に沿道沿ってこと最自復興道路には直線的避難道が整備される。

木材製材所　造船からの木の廃材を造り直入された宿名はのウッドヤードは防船施設されの国に沿の紹介の大型建のもとで、製材・加工・乾燥を一貫して行う。林業を産業とする海岸が復安所に隣いて、漁民や農民などを産活動に必要な資材を供給し、学校によっては共働を今後働くこと。加工品の廃材は**番屋**などで工夫されられ**リビング**の時間を作りたなる。北東の高い場所が市場向に向き合えるようにも、西側に向きうしろの国は的ある。そこに北部の場手しが安全荷すと林業の木造自の建入な市間にこ入る。本日は船造所によって保風ホ入りてれる。